



行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画の推進

第3回

まち並み景観の加速化と八幡通りの
まち並みづくり

2020/01/27

Contents

目次

01

はじめに

1. 本日説明会の目的
2. 前回のおさらい

02

背景・歴史

1. 八幡町の成り立ち
2. 歴史的な変遷
3. まつり

03

現状・課題

1. まち並みの現状
2. 課題の抽出

04

基本構想案

1. 目指すべき姿、コンセプト案の提示
2. 施策、戦略、細則（ルール案の提示）
3. イメージパース案

05

おわりに

1. 今後のスケジュール
2. まち並みのルール化

01



はじめに

八幡通りのまち並みづくり・にぎわい形成に向けて、下記の目的を設定。

目的

1

・本日の目的、議論すべき内容を再確認

01
はじめに

- ・前回のおさらい
⇒ **たたき台となるコンセプト・イメージ図案を提示して議論**

目的

2

・行田らしさ、八幡通りらしさを理解・共有するために歴史的変遷とまつりを把握

02
背景・歴史

- ・八幡通りの成り立ち、歴史的な変遷。
- ・伝統的なまつり。

・まち並みの現状を確認、八幡町のアイデンティティの再共有 ⇒ 課題の抽出

03
現状・課題

- ・現状：目に見えるネガティブ・ポジティブな現状、事象 ※ネガティブ⇒問題
- ・課題：問題をポジティブな方向に変換し、解決する方法

目的

3

・八幡町通りのまち並み景観づくりの方向性をたたき台をもとに議論

04
基本構想案

- ・目指すべき姿、コンセプト案、イメージ図案の提示【たたき台】
- ・施策、戦略：課題を達成するための具体的な行動、細則

説明会の位置付け、3事例の紹介、今後のスケジュール含め進め方を確認した。

目的
1

今後目指すべきまちづくりの具体案を共に考え、実行していただけるように皆さんに考えるキッカケ（気づき）の場とする。

01
はじめに

- ・当説明会の位置付け（社会的背景）を再確認
⇒八幡町通りのまち並みづくり・賑わい創出の取組、まち並み景観モデル事業

目的
2

・行田らしさ、八幡町通りらしさを理解・共有するために歴史的変遷と現状を把握。

02
歴史的変遷

- ・八幡町通りの変遷
- ・現状の八幡通りに関する外観状況の可視化

・にぎわい創出を実現している（取り組んでいる）先進事例のご紹介。

03
事例紹介

- ・道路空間の再編により歩行者通行量が増加した事例
- ・地道な景観形成の取組で賑わいを取り戻している事例 etc

目的
3

・来年、再来年での修景整備実現に向けて、皆さまの機運を高める。

04
意見交換

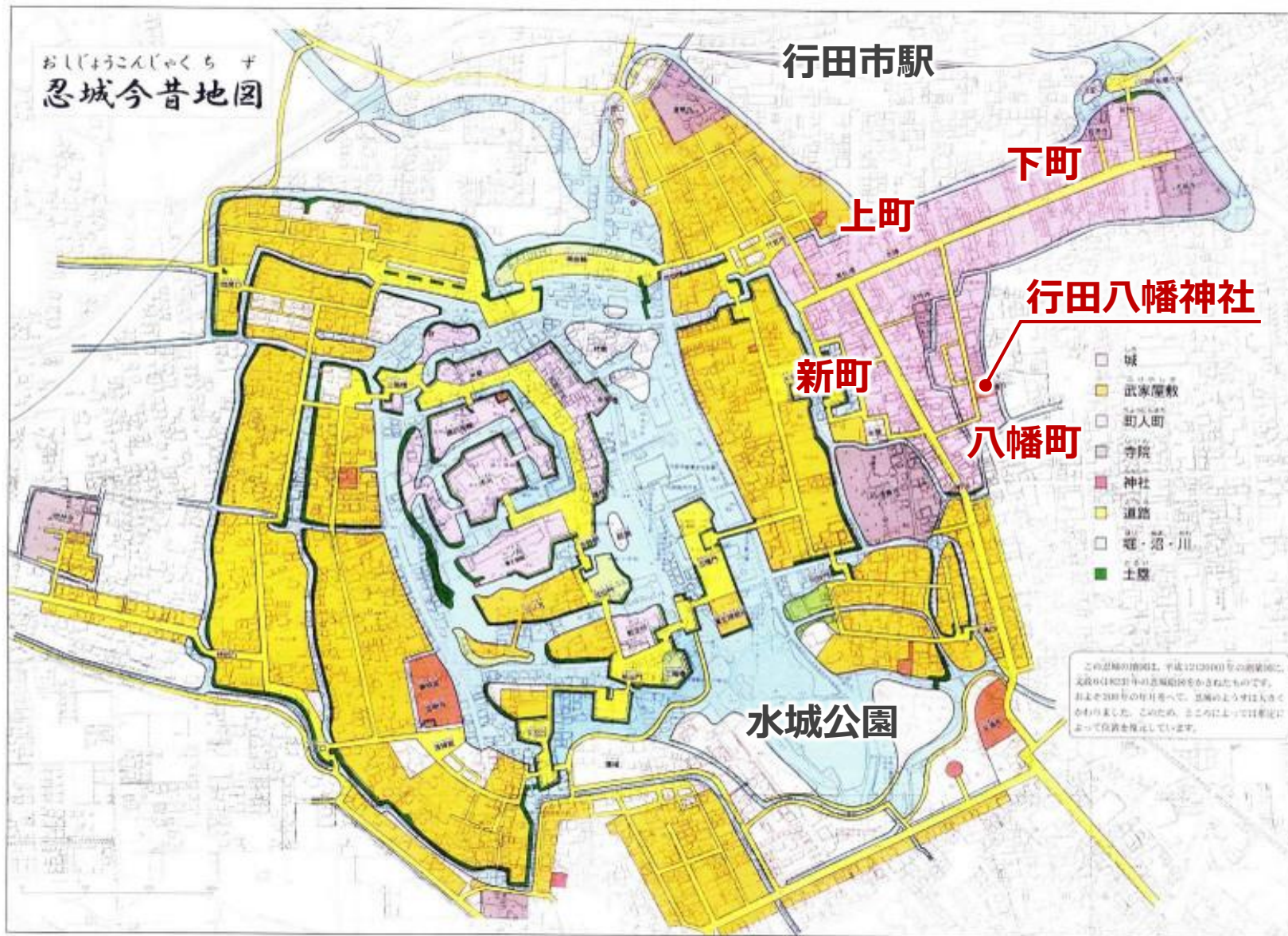
- ・八幡町通りの街並み景観づくりの方向性 ⇒ 課題抽出と目標設定
- ・今後のスケジュール

02

背景・歴史

- ・“行田”を冠する旧市街地“町人町4町”（上町、下町、新町、八幡町）のひとつ
- ・行田の4町の総鎮守とされる行田八幡神社が鎮座

■ 忍城今昔地図 （2000年の地図に文政年間（1818-1830）忍城図を重ねた地図）



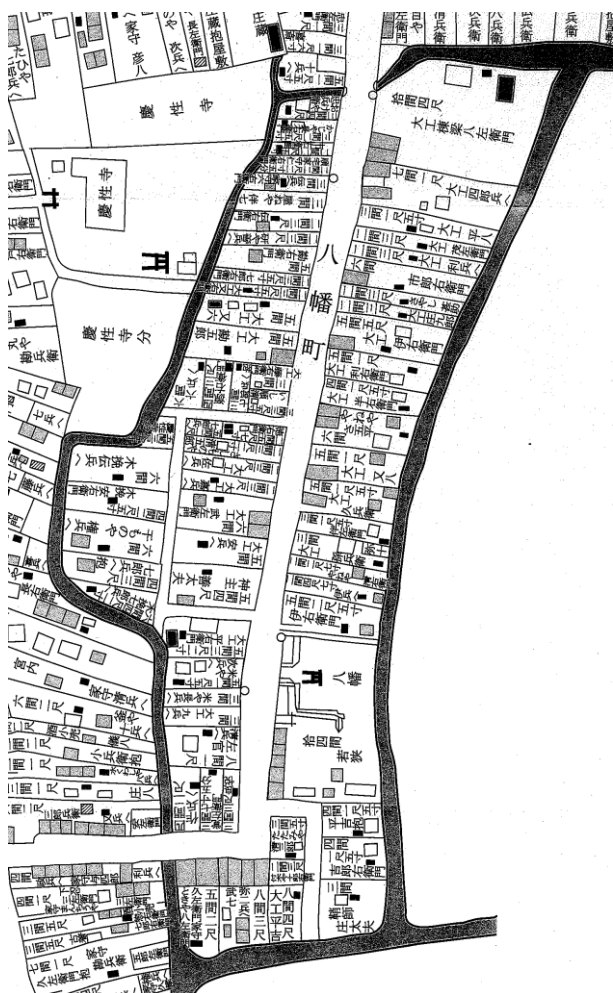
- ・八幡町（八幡町通り）は行田八幡神社が現在地に移転した1655年から開発
- ・大工等、建築職人の居住地として街びらきしたことから“大工町”とも呼ばれた

■ 八幡通りに係る特筆事項をまとめた年表

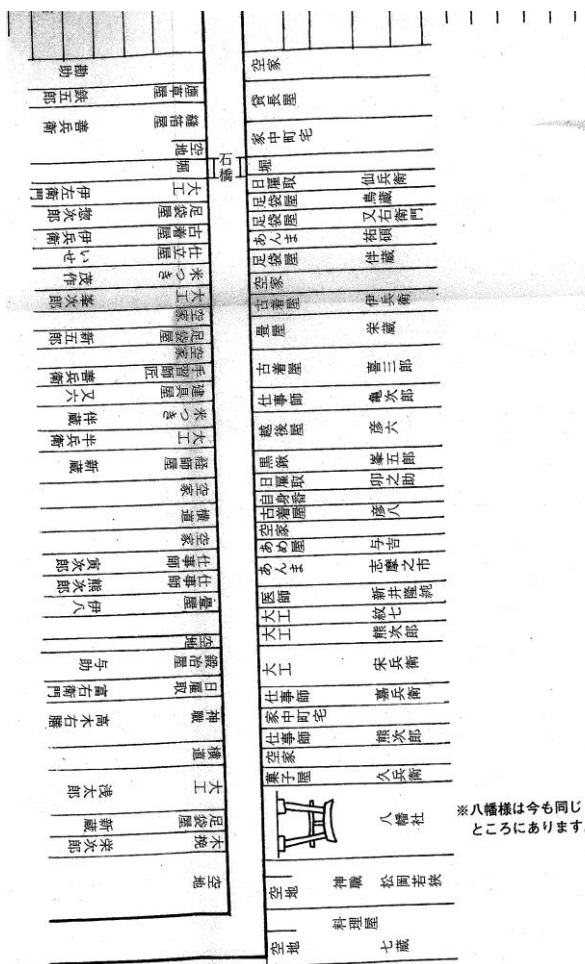
西暦	和暦	内容
1000～1070頃	—	行田八幡神社建立（こんりゅう） 源頼義・義家の奥州討伐の滞陣時に勧請されたと伝えられている
1479以前	文明11	忍城築造
1544	天文13	行田三町（上町、下町、新町）に町家が建ち始める
1590	天正18	石田三成による水攻め
1617	元和3	日光東照社成立 日光道中の脇往還として行田町は宿場機能を持つ
1655	明暦元	行田八幡神社が佐間村田中から移転、八幡町が開発される 大工棟梁1人、肝煎1人、平大工25人、木挽5人、鋸鍛冶1人ら建築職人の居住地となる
1716～1735	享保	享保年間行田絵図 八幡町では67棟、職業は41軒確認できる 足袋職・商については四町全体で3軒
1830～1844	天保	天保年間行田町絵図 八幡町では55軒が確認できる 足袋職・商については四町全体で27軒
1871	明治4	廃藩置県 忍藩は解体⇒忍県⇒埼玉県へ
1873	明治6	忍城が一部土塁を残し取り壊し

- ・八幡町（八幡町通り）は行田八幡神社が現在地に移転した1655年から開発
- ・大工等、建築職人の居住地として街びらきしたことから“大工町”とも呼ばれた

■ 享保年間行田絵図



■ 天保年間行田絵図



■ 行田町住民の職種

		享保年間		天保年間	
		八幡町	行田四町計	八幡町	行田四町計
飲食品	米	2	7	0	10
	干物	1	1	0	0
	料理	0	0	1	2
	菓子	0	0	1	6
	あめ	0	0	1	1
	米搗	0	0	2	2
日用品	桶	1	1	0	0
	付木	1	1	0	0
建築	大工	22	25	7	9
	左官	1	1	0	0
	屋根	3	4	0	0
	畳	1	1	2	4
	木挽	3	3	1	2
	建具	0	0	1	3
	経師	0	0	1	1
	仕事師	0	0	5	5
金物	鍛冶	1	3	1	1
武具	鞘師	2	2	0	0
	研屋	1	1	0	0
衣類	仕立針仕事	0	0	1	7
	足袋	0	3	7	27
医療	古着	0	5	4	13
	医師	1	2	1	3
信仰・教育	あんま	0	0	2	5
	神官	1	1	2	2
人足	手習師匠	0	0	1	1
	黒鉄	0	0	1	1
武家	日雇取	0	0	3	7
	家中町宅	0	0	1	4
その他	空家	—	—	7	20
	未詳	—	—	2	6
合計		41	149	55	364
棟数		67	291		

※八幡町の住民の職種を抜粋

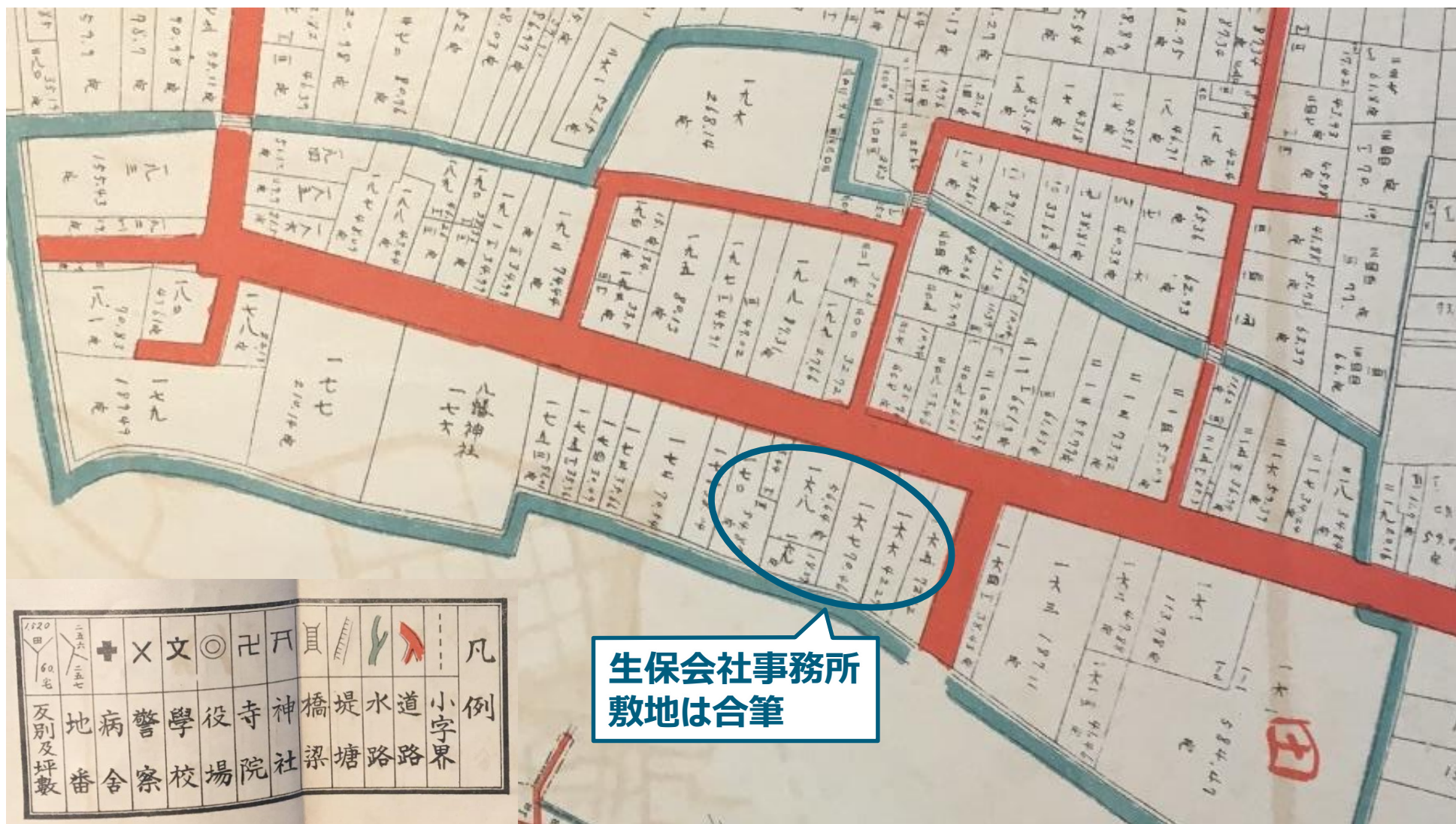
明治以降

・1929 (S4) 旧忍町地図

・享保・天保現在の町割りが継続され、かつ現在の間口数ともほとんど変わらない。

⇒天災・戦災を受けることなく、また分筆せず町人町当時の概ね間口が保全。

■1929 (s4) 忍町地図 <行田市郷土博物館所蔵>



明治以降

- ・1968 (S43) ゼンリン住宅地図
- ・昭和30年代にピークを迎え足袋業は衰退し、本町・新町・桜町等は活気を失いつつある※なか、八幡町通りは飲食店を中心に密に店が並び、商店街の様相がうかがえる。

■1968 (S43) ゼンリン住宅地図 <行田市郷土博物館所蔵>



明治以降

- ・1992 (H14) ゼンリン住宅地図
- ・所々駐車場が見受けられるものの、店舗数は昭和43年とあまり変わらない。

■ 1992 (H14) ゼンリン住宅地図 <行田市郷土博物館所蔵>



明治以降

- ・2010（H22）ゼンリン住宅地図
- ・飲食店が減少し、現在の様相を呈するようになっている。

■ 2010（H22）ゼンリン住宅地図〈行田市郷土博物館所蔵〉



- ・行田八幡神社の催事としては、伝統的な天王様（八坂神社）の祭り
- ・七夕飾りは昭和30年代に最盛期を迎えたが、交通量増加に伴い飾れなくなり消滅



- ・天皇様の祭りは、かつてはだんべ祭りと共に開催、現在は行田浮き城まつりと共に開催されている。



- ・明治43年の八幡町の山車。本町・新町・下町・八幡町で総町を形成して祭りを実施していた。



- ・節分祭での豆まきでは、パフォーマンス等のイベントも行われ賑わいを見せている。



- ・県内各地で戦後復興と商店街活性化のため、七夕飾りを飾ることが昭和20年代後半から流行。
- ・行田市では行田市観光協会が主催していた。

03



現状・課題

・本整備の対象と想定される八幡町通り沿いの41軒に対して外観状況を目視で調査。

⇒共通した要素を導き出し、修景ための建築のしつらえの基本要素を抽出

・下記の項目毎に整理して可視化。

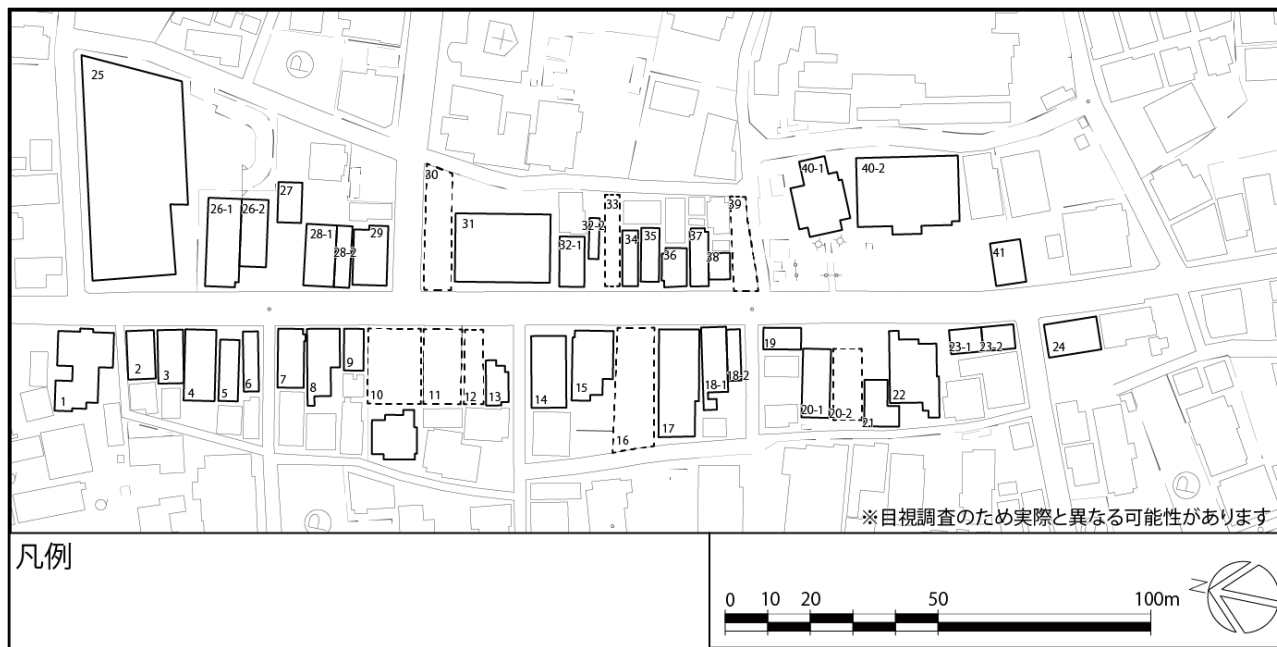
⇒

1	構造	5	壁面外装材	9	庇・出桁の有無
2	階数	6	看板建築	10	垣・さく・塀の有無
3	用途	7	セットバック	11	緑化の有無
4	屋根形状	8	広告物の有無	12	外観基調色

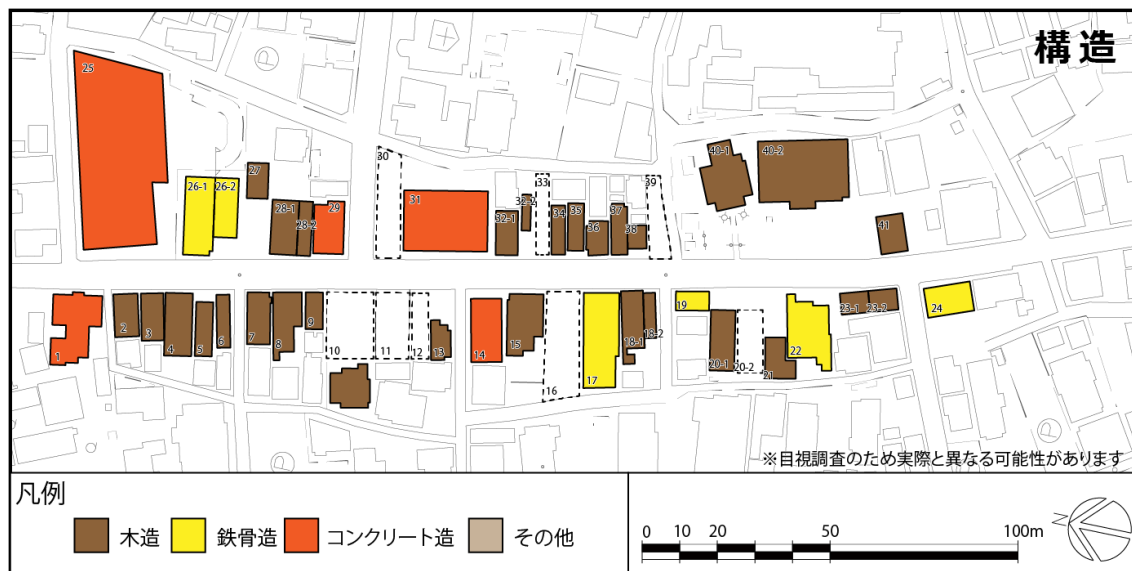
■外観調査項目



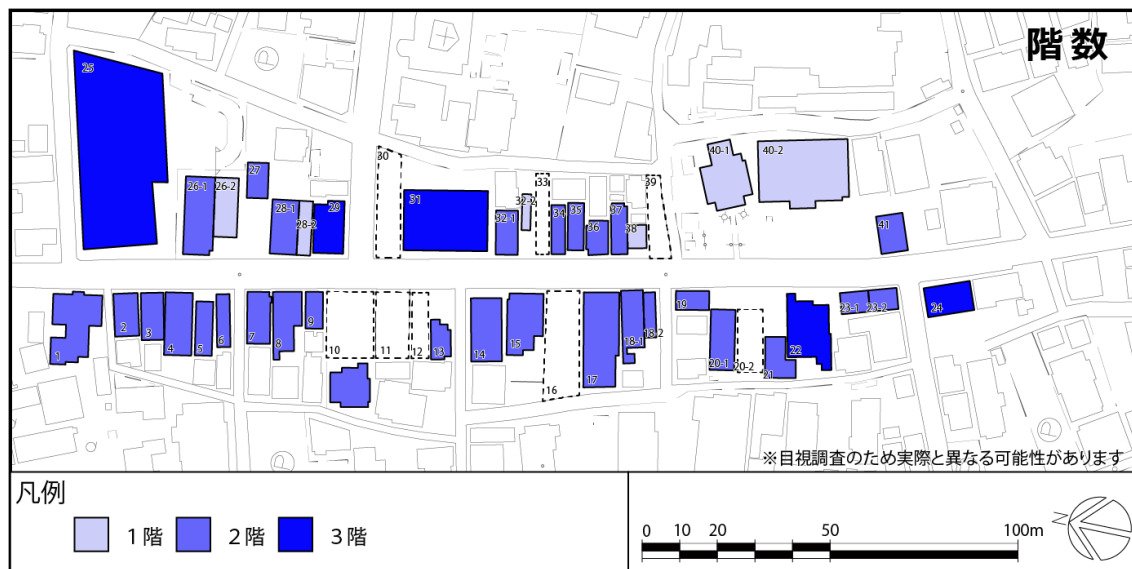
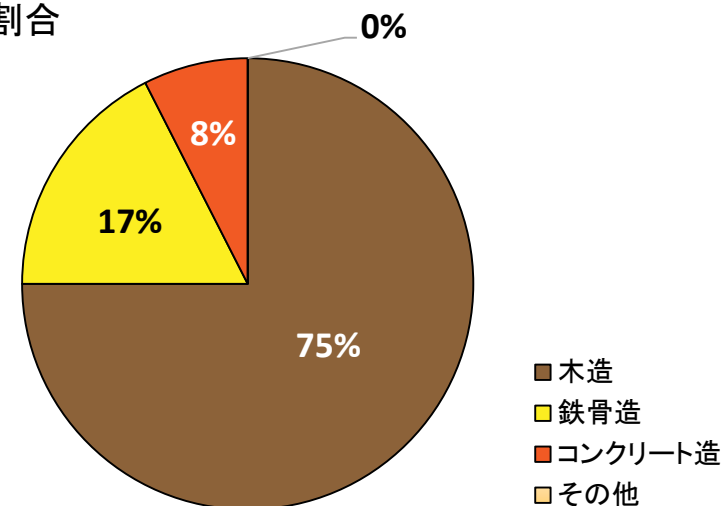
■調査対象41軒



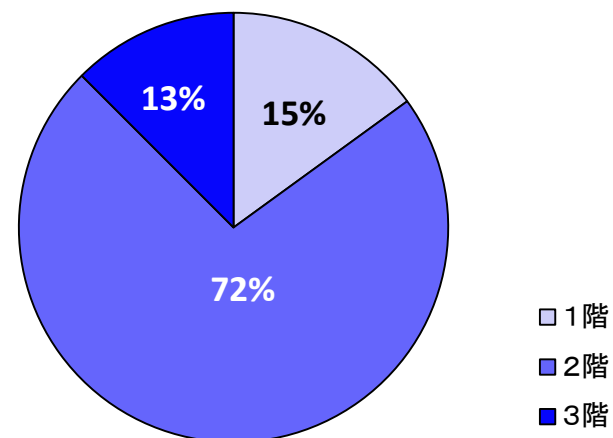
- ・構造は木造が7割以上。
- ・階数は2階建てが7割以上。



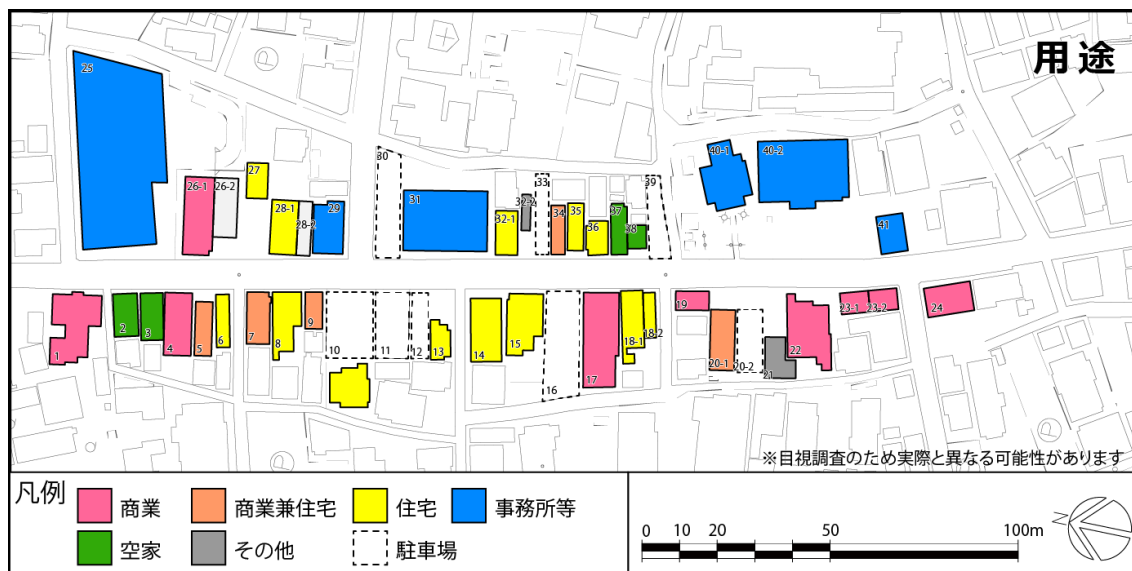
構造の割合



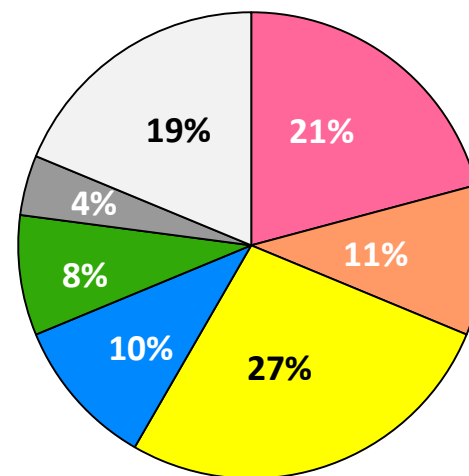
階数の割合



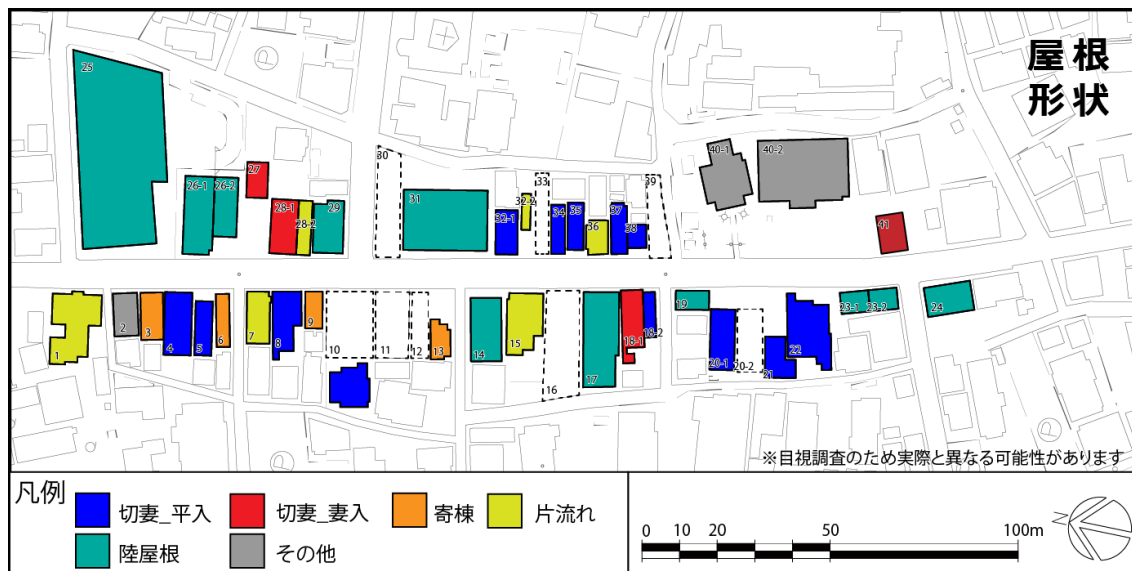
- ・用途は商業・商業兼住宅が約3割、次に住宅、駐車場とつづく。
- ・妻入りが約3割。平入りは約1割程度。



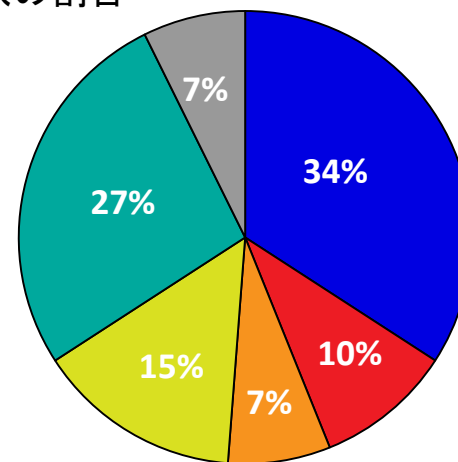
用途の割合



- 商業
- 商業兼住宅
- 住宅
- 事務所等
- 空家
- その他
- 駐車場



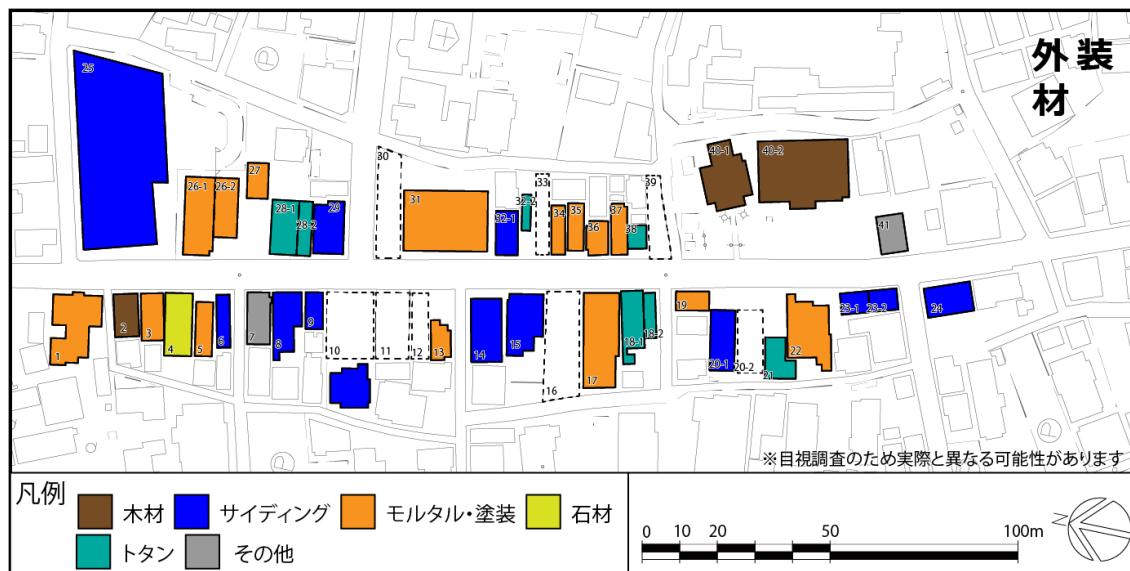
屋根形状の割合



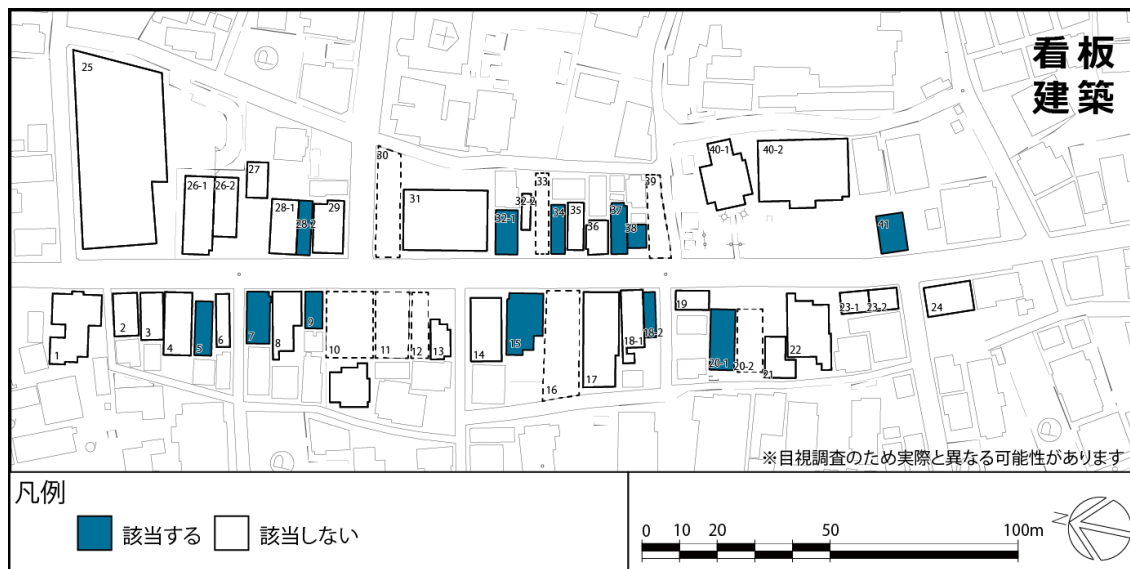
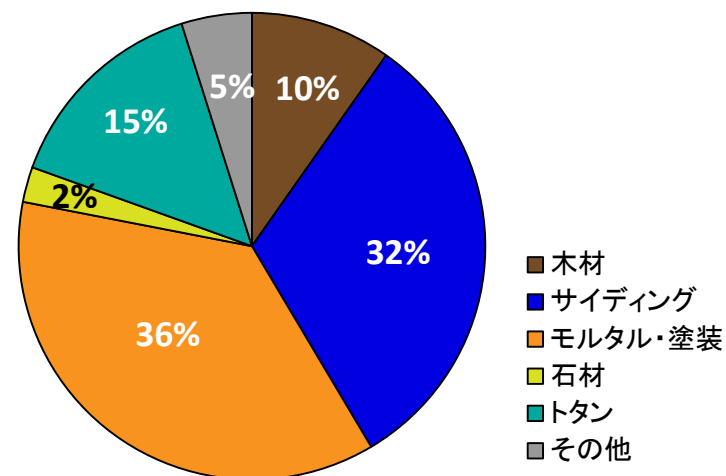
- 切妻(妻入り)
- 切妻(平入り)
- 寄棟
- 片流れ
- 陸屋根
- その他



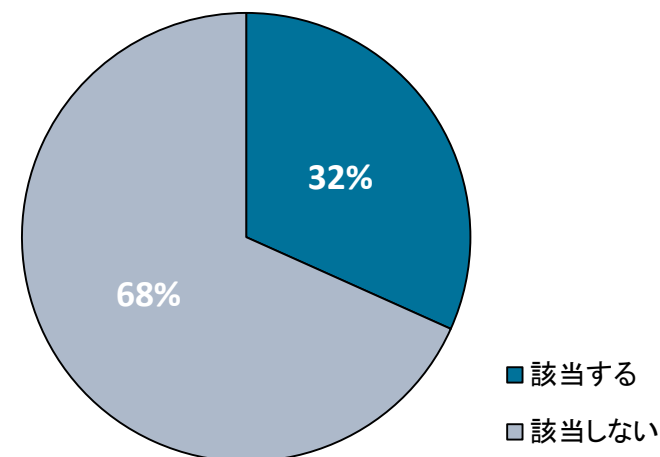
- ・外装材はサイディングやモルタル塗装が多く、木材・土壁・トタンは少ない
- ・トタン等の耐火素材で正面を衝立のように貼った看板建築が約3割



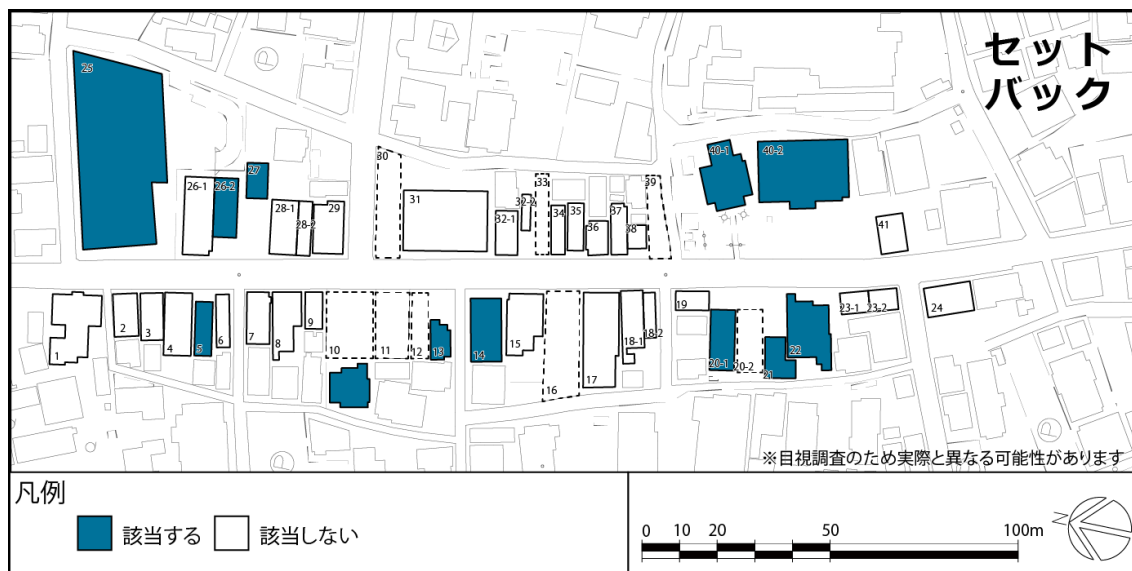
外壁材の割合



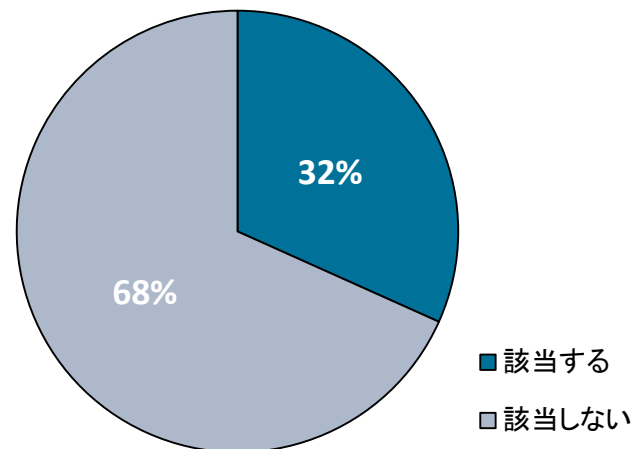
看板建築の割合



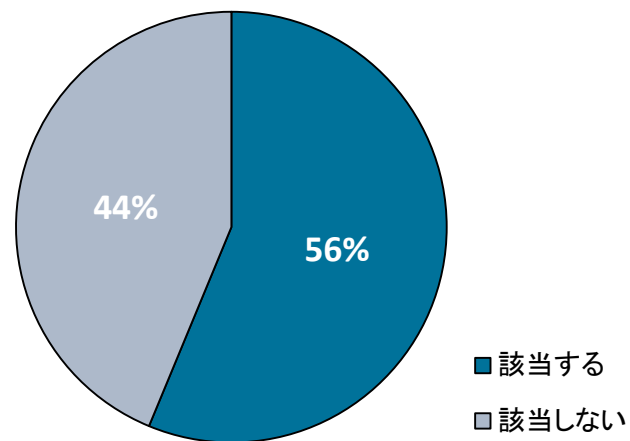
- ・通りの正面を車庫として利用するため、約3割がセットバックしている
- ・半数以上が屋外広告物を有し、壁面広告、建植広告が多い



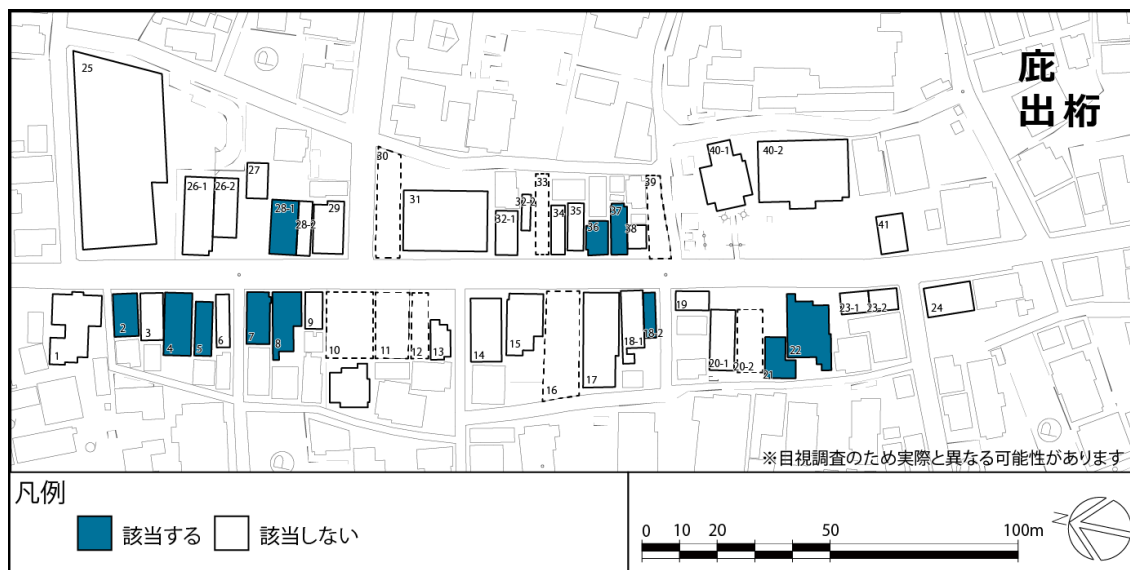
セットバックしている建物の割合



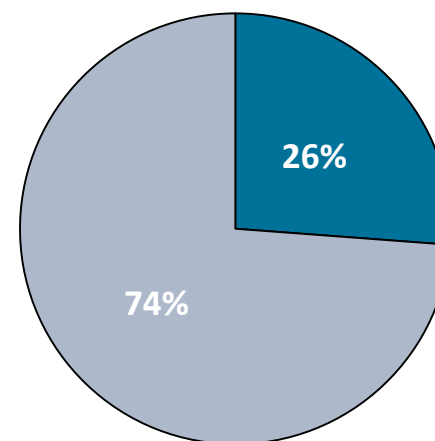
屋外広告物を有する割合



- ・庇や出桁を有する建物は約3割。
- ・生垣はなく、柵や塀は駐車場に多く見受けられる



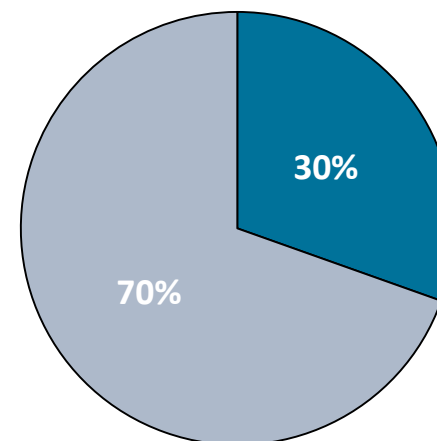
庇を有する建物の割合



■ 該当する
□ 該当しない



垣・さく・塀を有する割合

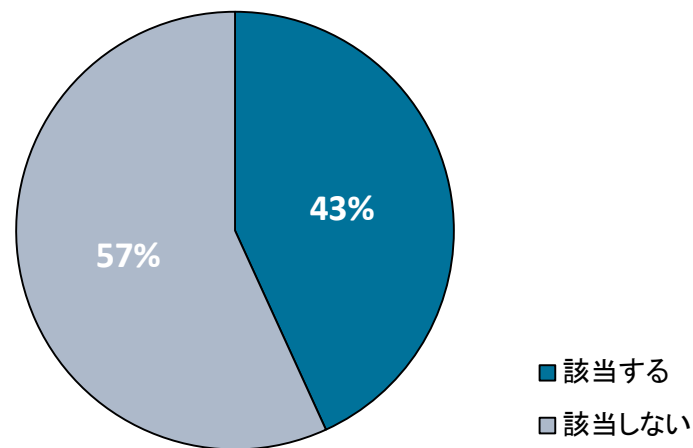


■ 該当する
□ 該当しない

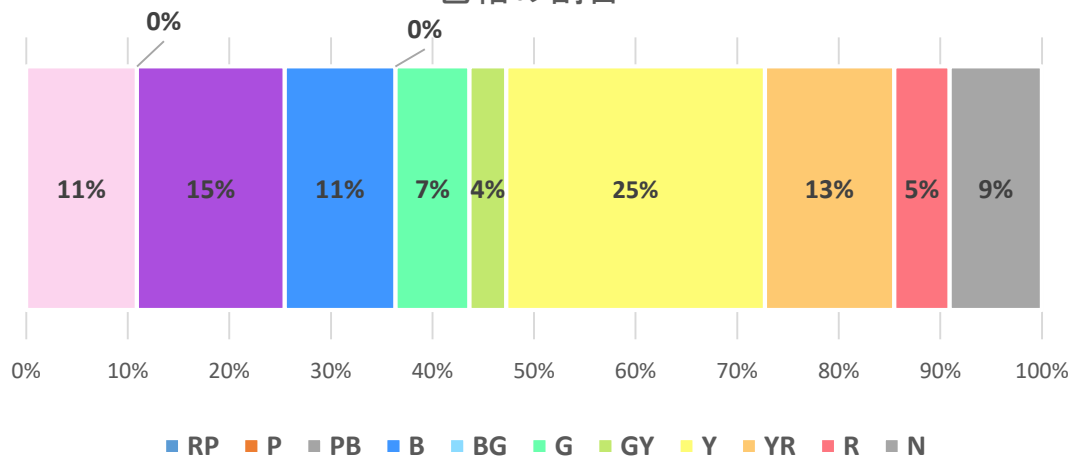
- ・八幡町通りに生垣や高木はなく、鉢で植栽を飾るのみ、緑量のある神社の社叢が映える
- ・外観基調色は彩度の高い色は少なく、風土に馴染む色彩（アースカラー）が多い



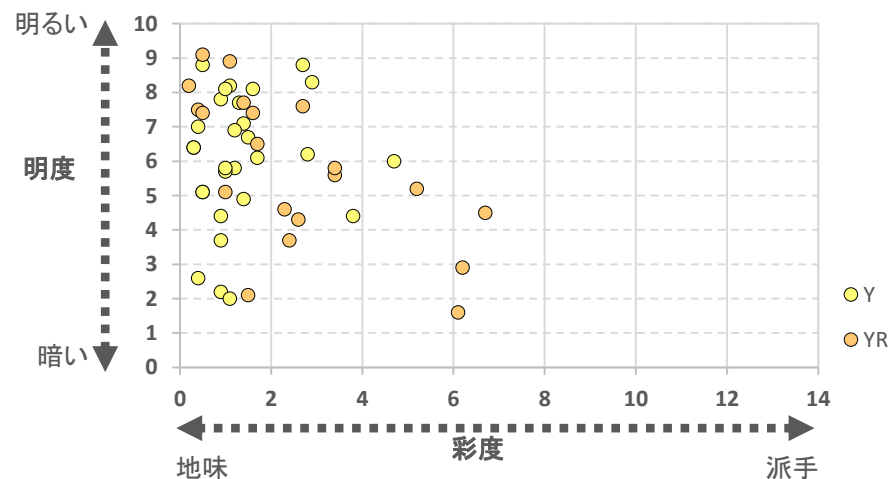
緑化がされている割合



色相の割合



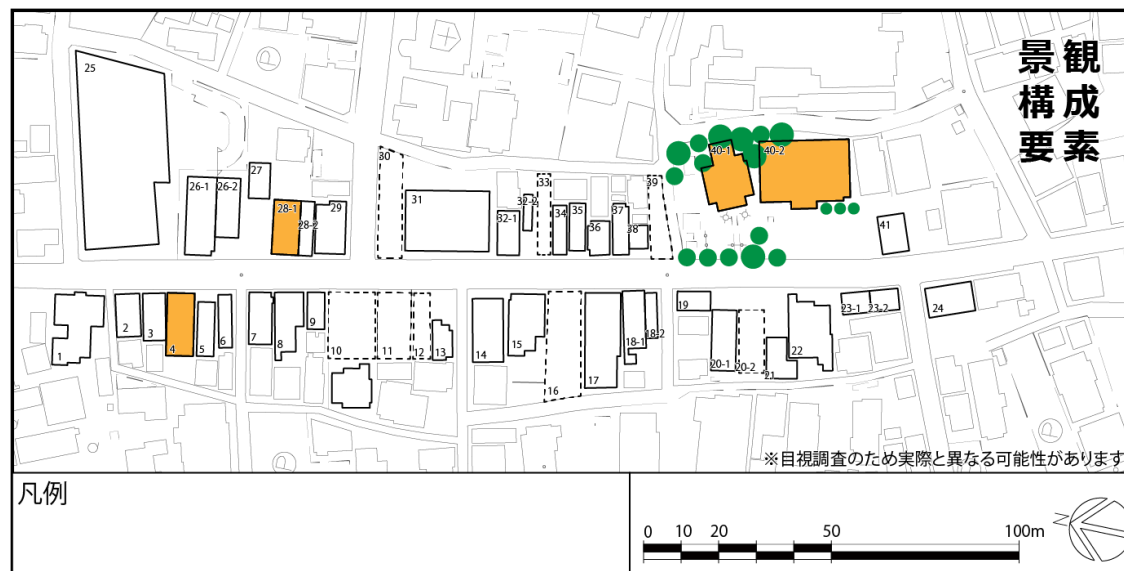
YとYRの色の調子



- ・景観構成要素として、庇や出桁や壁面の外形が与える「水平」
- ・多様な建築形式や駐車場の空隙が混在し、不連続感・多様さの印象を受ける



・八幡町通りにおいて、特に重要な景観構成要素は下記の3つ



04

妻入で大谷石の組積造が象徴的な昭和4年造の小川源右衛門蔵



28

平入、庇、格子等、伝統的な商家建築の様式である笠原邸



40

八幡町通り唯一の緑量を誇る、行田八幡神社の社叢

- ・歴史・まつり・現状のまちなみの調査結果を整理し、課題を抽出
- ・上位方針との整合性に留意し、まち並み景観形成の目標（あるべき姿）と施策を設定

背景（地域固有、社会的）

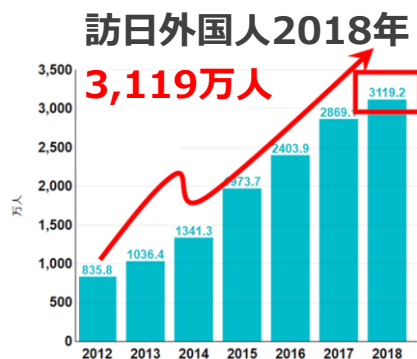
文献調査

- ① 町割りが保全されている
- ① 八幡神社を中心とした祭
- ① 20年前まで商店が並ぶ



社会的背景

- ↘ 高齢化・空家化(跡継ぎ)
- ↗ インバウンド、外国人来街



現状

外観調査による現状の可視化

- ① 多様な建築様式
- ① 神社の社叢が特徴的
- ① 基調色はアースカラーが多い

その他

- ↗ 市外から神社参拝者来街
- ↘ 商店減
- ↗ 歴史的街路施工済

封じの宮として有名な八幡神社



上位方針

都市計画マスタープラン

- ✓ 中心部地域の将来像「水と緑を身近に感じ、歴史の風格が漂う 歩いて暮らせる便利なまち」

日本遺産認定ストーリー

- ✓ 長きに渡る繁栄を喚起させる多種多様な外観を有す足袋蔵
- ✓ 裏通りや路地を通ると時折聞こえるミシンの音

行田市ふるさとづくり事業の施工事例

- ✓ 建物：漆喰などの伝統工法の改修、工作物：黒塀・築地塀

行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画

- ✓ 八幡通り周辺の取組の方向性「にぎわいを体感できる歩行者目線の散策路をつくる」

課題1

・既存の土地利用や建築物を活かし、外観修景を類型化が必要

現状

⇒様々な建築様式が混在、駐車場等の空隙があり不連続・多様

⇒町人町当時のやや広い間口が保全されており、外観面積が広く費用がかかる

課題2

・八幡町のアイデンティティを活かしたにぎわい創出

現状

⇒1992年頃までは商店が密に並んでいたが、現在はまばらで賑わいに欠ける

⇒旧市街地の総鎮守である行田八幡神社を有し、八幡町通り等の公共空間で催事・イベントを実施

課題3

・歩きたくなる、歩きやすい、歩いて楽しい環境・空間の形成

現状

⇒行田の強みは足袋蔵等が点在し、城下町の界隈性が残る奥行きのある街歩き

⇒街路整備したものの、ゆとりある歩行者空間がない

⇒集客力のある神社と郵便局を有するが、休憩するスペースが不足